

岡山県立大学と

連携して

市では、岡山県立大学との包括協定を契機に、連携を深めようとしています。ここでは吉備路郷土館の活用案の提案とインターンシップの実施について紹介します。

吉備路郷土館の活用案 実習と共同研究を兼ねて提案



平成22年3月末で閉鎖される県立吉備路郷土館の活用案について、岡山県立大学デザイン学部13人が提案しました。設計製図実習の一環で行われたもので、市の関係者やまちづくりに携わる人など約30人が出席。学生たちは、現地調査や法令などを基に考えた活用案を、模型や図表を使い提案しました。

学生ならではの視点や発想で、ギャラリーや美術館、公民館、休憩所、宿泊施設などの活用策を提案。いずれも、人の交流を盛んにし、過ごしやすく心地よい空間づくりを目指したものでした。また、自然光を取り入れることにも気を配っていました。

吉備路郷土館の活用策は現在、市と同大学で共同研究を行っており、市では、今回の提案を含め、活用策をまとめていきます。

問い合わせ 文化課文化財係
(☎08363)

模型を使って提案するデザイン学部の学生

市役所の仕事を学びたいと11人

インターンシップの制度を活用し就業体験

大学生が在学中に、専攻や将来目指す職に関連した企業や公共機関などで就業体験をするインターンシップ。市では7月下旬以降、岡山県立大学の学生11人を受け入れました。

学生は、自ら希望した秘書室や環境課、市民課、地域応援課、市図書館、企画課、人権・まちづくり課の7部署で3日から11日間、仕事を体験しています。情報工学部の学生は、10日間以上の就業体験により単位認定されます。

お客様サービス係で案内業務を体験する中山翔揮さん[写真左]。清音公民館で開かれたガラス張り公開市長室で司会をする村井聡紀さん[写真中央]。水辺の教室で世話をする福崎一世さん(左)と堀尾祐司さん(右)[写真左]

秘書室を希望した村井聡紀さん(情報工学部4年)は、市長の随行をはじめ、地域市長室やガラス張り公開市長室での業務を体験。特に、清音公民館で開かれたガラス張り公開市長室では司会を務め、会議を進行しました。「いろいろなことを知ることができ楽しかった。長としての振る舞いや仕事が勉強

になった」と教えてくれました。

環境課で働いた福崎一世さん(情報工学部3年、小寺)と堀尾祐司さん(情報工学部3年、駅前二丁目)は、子どもたちを対象にした「水辺の教室」や「自然学校」のイベントをはじめ、さまざまな仕事を体験。2人は、「環境課の仕事の幅広さを実感しました。イベントではコミュニケーションの勉強になりました」と話します。

公務員志望の小川弘晃さん(情報工学部3年、中央三丁目)は、市図書館での就業体験を希望。「本が好きで、自分の得意な分野を生かして市の仕事を学べたら」と話します。同様に公務員志望の中山翔揮さん(情報工学部4年)は、お客様サービス係へ。「玄関案内を通じて市の仕事の全般を知ることができればと考え希望しました」と教えてくれました。

就業体験は、9月18日までの間に実施されます。

問い合わせ 企画課企画調整係
(☎08213)



神在小学校の子どもたちも電気自動車を試乗体験した

エコ!
公用車に電気自動車
アイ・ミーブ1台
～7月には試乗会も実施～

地

球温暖化対策に高い効果が期待される電気自動車。

市では三菱製の電気自動車アイ・ミーブを市民や事業所に知ってもらうと7月15日、市役所で試乗会を開催しました。

市民や事業所の人など約80人が試乗。電気自動車の乗り心地や加速性能を体感しました。

市は、電気自動車アイ・ミーブ1台をリースで導入。8月10日、納車されました。

1回の満充電で約160km走ることができ、市長の公務や子育て支援の業務などに使用することになっています。

問い合わせ 環境課環境係
(☎08339)



試乗会には、三菱自動車の益子修社長(写真右)が訪れ、市長の試乗に同乗した